

令和3年度「関係人口創出・拡大のための中間支援組織の
提案型モデル事業」

成果報告会

団体名：株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

1. 事業概要・スキーム図

本事業では、ブロックチェーン技術を活用した独自コインにより、「**個人と地域の多様なつながりを可視化**」する実証を実施。イベント参加や地域への訪問に加えて、SNSでの発信や農産品の購入など、日常の「**地域とつながる行動**」も見える化することで、多様な関係人口が把握でき、施策のPDCAにつながる。

“関係人口”の課題

- “新しい概念”であるがゆえに交流人口、定住人口と異なり、「**関係人口**」の**定量的な統計手法は確立されていない**。

本事業の概要

- 個人と地域のつながりを**定量的に可視化するプラットフォームの実証事業**を実施
- 可視化ツールとして、ソーシャルアクションカンパニー株式会社が運営するactcoinを活用

本事業が目指す姿

- 個人と地域の**つながりの“可視化”**
- 可視化によって、
 - ① **個人にとっては、さらに地域とつながりたいという意欲が喚起**される
 - ② **地域にとっては、自らの地域への関心層、愛着層を分析**することができ、**関係人口関連施策の構築における羅針盤**となる
 - ③ 各地域の**関係人口のつながりが見えること**により、**地域間で良い刺激**が生まれる

actcoin



※個人が過去に実施した**社会貢献活動**に関する「参加」「寄付」「習慣」が定量化される仕組み
<https://actcoin.jp/>

本事業で捕捉する関係人口アクション

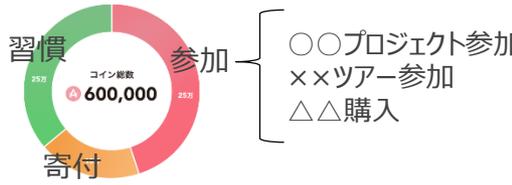
可視化するアクション	具体的活動例
e-VISIT	オンラインを活用した交流事業
参加	各地域が募集する関係人口関連プロジェクトへの参加
発信	個人のSNS、ブログ、HP等における地域情報の発信
購入	各地域の産品の購入
コミュニケーション	電話・SNS等による各地域の家族・友人との連絡
VISIT	家族・友人に会うための地域への訪問

3 地域を対象に実証

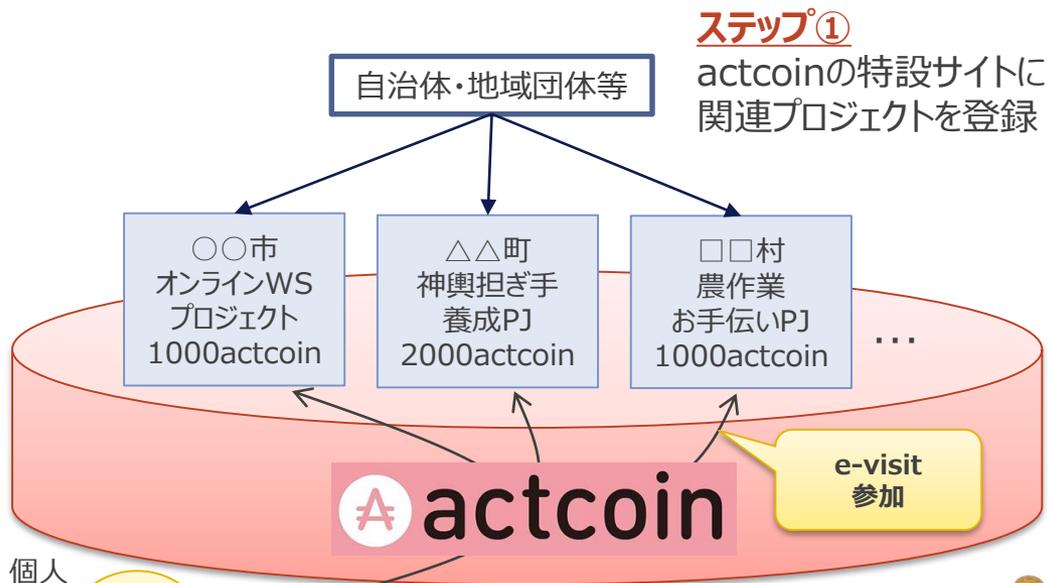


本事業のアウトプットイメージ

- 参加者および地域に対して、アクションごとの獲得コインを提示。参加者の属性情報や、各地域の関係人口の行動などが分析可能に。



1. 事業概要・スキーム図



ステップ①
actcoinの特設サイトに
関連プロジェクトを登録

ステップ③
actcoinの獲得・
関係人口アクションの可視化



ステップ②
・興味・関心のある地域の
PJへの参加
・デイリーアクション（情報
発信、産品購入等）



● action01
地域のイベント・取り組みに参加

サーキットマルシェ春原篇
CIRCUIT MARCHE
【台数限定！】サーキットマルシェ@…
2021.10.30 (土) 08:00~17:00
MISHO station (ミショーステーション)
SDGs 11 12 15
あなたと地域のつながりプロジェクト 4,000

【高浜町】ワクワク日本海ワーケーション…
2021.09.14 (火) 19:30~21:30
オンラインイベント
SDGs 8 11
あなたと地域のつながりプロジェクト 2,000

● action02
日常生活の中で出来るアクション

地域とつながる！ 設定する
SDGsパートナー
あなたと地域のつながりプロジェクト
地域とつながる！
あなたと地域がつながる関係人口アクション！
地方への移住やUターン以外にも、さまざまな形の「地域とつながる」アクションがあります。あなたと地域のつながりプロジェクトでは、日常のちょっとした地域とつながるアクションも「見える化」し、あなたと地域のつながりを深めるとともに、地域の持続可能性を高めます。

デイリーアクションで登録できる行動

- 〇〇地域の情報をブログやSNSで発信した
- 〇〇地域の農水産品や特産品を購入した
- 〇〇地域にいる家族や友人に会いに行った
- 〇〇地域にいる家族や友人と連絡をとった
- 〇〇地域関連イベントに参加した

活動内容① 特設サイトの開設

- ◆ actcoin上に特設サイトを開設 <https://actcoin.jp/tiiki/index.html>
- ◆ より多くの人に分かりやすく訴求するよう、「あなたと地域のつながりプロジェクト ～見える化で支える持続可能な地域づくり～」と題して、プロジェクトの趣旨、地域とつながるさまざまなアクション等を掲載。



活動内容② キックオフイベントの開催

- ◆ キックオフイベントとして、「関係人口」をテーマとしたオンライン座談会を開催
 - ◆ 約100名の申込があり、関心の高さを証明
- あなたと地域のつながりプロジェクトキックオフイベント：地方創生牽引世代のガチトーク！官・民のキーパーソンが語る関係人口の可能性とは
- 日時：2021年10月17日（日）15：00～17：00
- 開催方式：オンライン（ZOOM）
- 登壇者（順不同）：脇 雅昭 神奈川県理事／よんなな会発起人
井上 貴至 山形市副市長／地域力おっはークラブ主宰
三谷 繭子 株式会社Groove Designs代表／都市環境デザイナー
半田 兼一 株式会社地域創生Coデザイン研究所マネージャー
薄井 大地 ソーシャルアクションカンパニー株式会社COO
- ファシリテーター：古謝 玄太 株式会社NTTデータ経営研究所マネージャー



活動内容③ 実証地域のイベント・取組の実施

- ◆ 本事業のモデル地域として連携した3地域の関係人口関連イベント・取組を特設サイトに掲載し、actcoinの申請を受け付け
- ◆ 結果、合計**22のイベント・取組を掲載し、延べ92名の登録申請**



活動内容④ デイリーアクションの登録

- ◆ 個人と地域が日常的につながる活動を登録できるような仕組みを導入
- ◆ 実証地域に関する「発信」「購入」「訪問」「コミュニケーション」「関連イベントへの参加」をデイリーアクションとして登録できるよう設定
- ◆ その結果、**延べ30名の方が、合計839回のアクションを登録**

デイリーアクションで登録できる行動

- ○○地域の情報をブログやSNSで発信した
- ○○地域の農水産品や特産品を購入した
- ○○地域にいる家族や友人に会いに行った
- ○○地域にいる家族や友人と連絡をとった
- ○○地域関連イベントに参加した



2. 活動内容

地域にとっての関係人口の“見える化”の成果

※本事業の登録者約40名の分析結果であり、当該地域の全ての関係人口について分析したものではありません。

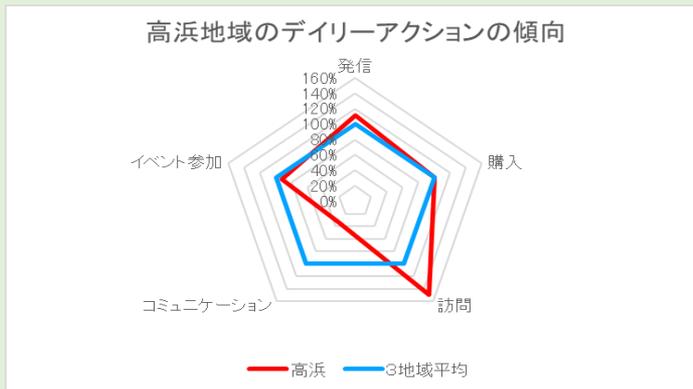
① 高浜地域の関係人口の傾向

- 性別は全国の傾向と同様、**男性のほうが多い**
- 年代は、**40代と20代が多い一方で、30代は少ない**
- 居住地は、福井県内を除けば**関西圏在住者が最も多く、ついで首都圏在住者が多い**



② 高浜地域の関係人口の日々の行動の傾向

- 高浜地域では、全国平均と比較すると**関係人口が積極的に地域とつながるアクションを実施**している
- 特に「**地域への訪問**」が多く、**地域情報の発信**も平均を上回っている
- 一方で、**地域住民とのコミュニケーション**は平均を下回っている



③ 高浜地域のイベント参加者の傾向

- 「子育て」に関するイベントは、**40代の参加者が多い**
- 「歴史」に関するイベントは**50代以上**の参加者が多い
- 「働き方」に関するイベントは**20代及び40代**の参加者が多い
- 実際にワーケーションを実施する人も、**20代以下の若い世代又は40代が多い**

	テーマ	オンライン/ オフライン	10代		20代		30代		40代		50代以上	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ワクワク子育てアップデート	子育て	オンライン	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0
おいしい循環	食	オンライン	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1
京都・奈良のつながり	歴史	オンライン	0	0	0	1	2	0	1	1	3	2
ワクワク日本海ワーケーション	働き方	オンライン	0	0	3	2	1	0	3	1	1	1
ワーケーション	働き方	リアル	3	2	0	4	2	0	3	2	0	0

イベント参加者のその後のデイリーアクションをフォローすることにより、参加者がその後地域のファンになったかどうかの分析ができる。たとえば食に関するイベントの参加者が、その後農水産品の購入をするようになったかどうか等。本事業では登録数が少数のため分析できなかったが、今後分析を進めたい。

2.活動内容

日々の「地域とつながる行動」の相関関係

- ▶ イベント参加と発信・購入に強い相関が見られ、イベントに参加することでSNS等での発信が促進されることが分かった。
- ▶ 一方で、参加とコミュニケーション、発信とコミュニケーションには相関関係が見られず、イベント参加や発信という行動と、その地域にいる方との連絡は関連があまりないことが分かった。

相関係数	発信	購入	訪問	コミュニケーション	参加
発信	1				
購入	0.72	1			
訪問	0.19	0.34	1		
コミュニケーション	-0.05	0.60	0.16	1	
参加	0.99	0.75	0.31	-0.03	1

3.自立化・自走化の検討

項目	検討内容
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度は、既存のactcoinの仕組みを活用し、特設サイトを開設することで「関係人口」に関する取組の掲載やデイリーアクション登録の仕組みを整備した。今後、プラットフォーム化をめざすためには、地域ごとにたまったコインを区分して見る仕組みや地域ごとの比較機能等を付与することも検討していく。 • 検討にあたっては、現在の共同・連携体制とともに、地域側の意見を積極的に汲み上げていく。
運営費用	<ul style="list-style-type: none"> • この実験結果を踏まえ、多くの自治体や地域団体からの賛同を得て、タイアップや掲載手数料を得ることによって事業の継続を検討する
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> • 今回、「地域」にとっての関係人口可視化の価値は示すことができたが、「個人」にとっての価値を十分に示すことができなかった。今後は貯まったactcoinの活用や、その行動履歴による限定イベントへの招待なども検討し、「地域」「個人」双方にとって嬉しい事業としていく必要がある。

4.他地域への横展開の可能性の検討

項目	検討内容
事業スキーム	<ul style="list-style-type: none"> • 本事業では、自らの地域がどのような関係人口を抱えており、その関係人口がどのような行動をとっているのかを可視化することができる。 • これによって、関係人口関連事業の成果を分析することができ、施策のPDCAを回すことが可能になると考えている。 • こうしたスキームは全国どんな地域、どんな事業主体であっても活用可能であり、むしろ地域が増えるほど、全国的な傾向や各地域の特徴が明確化される。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度の成果を踏まえて、自治体や地域団体等との連携・タイアップをさらに検討する。